

手術ナビゲーションシステムを導入して、 安全で精度の高い手術ができるようになりました

脳神経外科科長の^{ほうじょう まさと}北条 雅人です。

平素より患者さんをご紹介いただきありがとうございます。

今回は

手術ナビゲーションシステムを用いた最新の脳神経外科手術

について紹介します。

手術ナビゲーションシステムとは？

脳神経外科手術においては、手術中、どの部分を操作しているか、どこまで病変が広がっているかを正確に知ることが重要です。それを助けることができるのが手術ナビゲーションシステムです。自動車を運転する際のカーナビを思い浮かべてください。カーナビでは、液晶画面に表示された地図に、自分がどこを走っているかがリアルタイムに表示されます。

手術ナビゲーションシステムでは、手術中、専用のポインターで触れた部分が液晶画面のCTやMRIの画像内に正確に表示されます。2017年5月から、県立総合病院では、手術ナビゲーションシステムが稼働開始となりました。この新しいナビゲーションシステムの特徴を紹介いたします。

手術顕微鏡と連動したナビゲーションシステム

従来の手術ナビゲーションでは、位置を確かめるために、その都度、専用のポインターで指し示して液晶画面の方を見る必要があります。これは、時間がかかるだけでなく、術野から目をそらすために危険性をともないます。カーナビを想像してみてください。ナビの画面ばかりに気をとられていると、前方不注意のため事故をおこしかねません。そこで登場したのが顕微鏡に連動したナビゲーションシステムです。このシステムでは、顕微鏡で拡大している術野の中に、リアルタイムに病変の絵がスーパーインポーズされます。

これによって、術野から目をそらすずに、手術を行なうことができるようになりました。県立総合病院では、この新しいナビゲーションシステムを導入し、従来治療が困難であった脳腫瘍（髄膜腫・神経膠腫等）や脳血管疾患の手術加療が安全におこなえるようになりました。

軽微な症状でも結構です。

お力になれるようなことが

ございましたら月・水・金の脳神経外科外来まで、是非ご紹介、ご連絡ください。

よろしくお願いいたします。

顕微鏡の接眼レンズから実際に見える映像



硬膜を切開する前から、奥深くにある腫瘍が赤色と黄色の線で術野に投影されています。

お問い合わせ先：滋賀県立総合病院 地域医療連携室（紹介予約担当）

TEL：077-582-9711（直通）